2025年3月10日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 石田 健一

Bangladesh国チョットグラム - コックスバザール幹線道路整備事業（フェーズ2）
（協力準備調査（有償））
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2025年2月10日(月) 14:00～18:04
- ・ 場所：JICA 本部（2階202会議室）及びオンライン
- ・ ワーキンググループ委員：石田委員、貝増委員、鎌田委員、鈴木（和）委員、錦澤委員
- ・ 議題： Bangladesh国チョットグラム - コックスバザール幹線道路整備事業（フェーズ2）（協力準備調査（有償））に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・ 配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】 Bangladesh国チョットグラム - コックスバザール幹線道路整備事業（フェーズ2）（協力準備調査（有償））SC案
 - 2) 回答表及び別添資料
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2022年1月）

全体会合（第166回委員会）

- ・ 日時：2025年3月10日(月) 13:58～16:59
- ・ 場所：JICA 本部（2階202会議室）及びオンライン

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. チュナティ野生生物保護区のコアゾーン、バッファゾーン及びインパクトゾーンのうち、事業対象地周辺における希少種の生息・生育状況、アジアゾウの移動ルート・移動回廊と事業対象地との重複を確認し、生活圏とのコンフリクトといった自然・社会環境の最新状況を把握するために、現地の NGO や専門家等への聞き取りを行い、過去に IUCN が実施した際の調査方法等を参考に詳細かつ適切な調査設計のもと実施機関と調査を行うこと。

代替案検討

2. 国道一号線（N1）の保護区隣接区間における道路整備案については、調査の結果、重要な野生生物の生息・生育地やアジアゾウの移動ルート・移動回廊との重複が顕著であったときは、ルート案の見直しも含め検討すること。
3. 15 か所の市街地の整備方針代替案比較において、生計手段や地域コミュニティ分断への影響等を把握するための調査を適切に実施した上で、社会環境の評価点を再度精査するとともに、評価点の算出根拠が明確になるよう、DFR において各表中に情報を追記すること。

環境配慮

4. 野生生物の生息状況や保護区管理の状況の調査を通じて、保護区及びその周辺域の自然環境保全への影響が懸念される場合には、実施機関及び森林局に対して保護区の効果的な管理に資するような追加的措置を積極的に検討することを申し入れること。
5. 重要な自然生息地かどうかの判断や決定については、今後行われる現地調査の結果を踏まえて再度検討を行い、DFR に記述すること。

社会配慮

6. 計画路線周辺に集落、学校、モスクや病院がある場合、それを利用する住民等の動線の状況を把握した上で、子ども、高齢者、障害者を含む関係者が交通ルールを守り、円滑かつ安全に移動できるようにするための措置を講じるよう、実施機関に申し入れること。また、横断道の設置位置や構造などの検討にあたっては、関係者の意向を十分聴き取る機会を設けるとともに、それらを計画に反映した上で、その結果を DFR に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

7. 現地ステークホルダー協議の開催については、現地の実情に見合った言語や方法で十分に周知するよう実施機関に申し入れること。
8. パブリックコンサルテーションを実施する 7 か所について、代替案を比較検討した 15

か所の事業地周辺の住民を含む関係者へ十分周知するとともに、それら関係者が参加しやすくなるような場所で開催できるよう、フォーカスグループディスカッションの開催場所を追加することも含めて、実施機関に申し入れること。

以 上